

ヨコレイNOTE

第63期中間報告書(平成21年10月1日～平成22年3月31日)

特集:ヨコレイの海外展開

タイにおける
ヨコレイのビジネス

ごあいさつ	P1
営業の概況	P2
中間連結財務諸表(要約)	P5
事業別の概況	P6
トピックス	P7
特別コラム【ヨコレイくんが行く!『頑張るヨコレイVOL.③』】	P8
会社概要・株式の状況・役員及び執行役員	P9
ネットワーク	P10



YOKOHAMA REITO Co., Ltd. Company Profile

「人」に「もの」に 「地球」に“優しい” 食品流通のエキスパート

冷蔵倉庫事業

食材を中心に、お客様からお預かりした貨物を最適な条件下で保管し、先進の物流・情報システムにより、ジャスト・イン・タイム物流の一翼を担っています。

食品販売事業

国内外の様々な食材を手掛け、輸出入を含む仕入から販売までを一貫して行うことにより、信頼性の高い食の供給に貢献しています。

ごあいさつ

収益力を強化した
経営基盤により、
企業価値の持続的な向上を
実現してまいります。

代表取締役社長
吉川俊雄



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

第63期中間期の日本経済は、設備投資の鈍化や個人消費の低迷などにより厳しい状況に終始しました。食品関連業界におきましても、消費者の節約志向・低価格志向が依然として継続していることもあり、個人消費は低水準で推移する厳しい事業展開となりました。

こうした状況の中、当社グループは、平成20年11月に発表した第三次中期経営計画（3ヵ年）の事業方針に基づき、さらなる質の高いサービスの提供や新規需要の開拓に取り組みました。

収益の柱である冷蔵倉庫事業では、お客様ごとのニーズに対応したオーダーメイドサービスの提供などにより、エリア密着型の戦略を展開し、収益の確保に努めてまいりました。

成長の柱である食品販売事業では、「原料サプライヤーとしての機能向上」をめざして、商品調達力や販売体制の強化に注力いたしました。また、グループ会社の株式会社セイワフード、株式会社アライアンスシーフーズとの連携による新たな事業領域の発掘も着実に進めてまいりました。

その結果、当中間期の連結業績は前年同期と比べ増収増益となりました。

当社グループでは、今後も事業環境や市場ニーズの変化を的確に見据え、利益率を重視した事業展開で企業価値の持続的な向上を実現してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

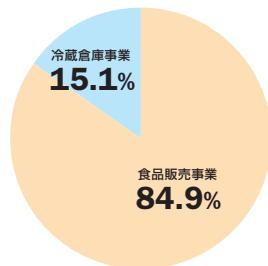
当中間期の概況

事業別売上高の内訳

当中間期(平成22年3月期)
売上高合計

62,526百万円

(注)その他事業収入17百万円を除く



当中間期におきましては、冷蔵倉庫事業は取引先企業の在庫調整等で荷動きの鈍い状況が続いた結果、売上高は若干減少しましたが、作業効率の改善によるコスト削減の取り組みと収益重視の営業展開が奏功し、増益を確保しました。

食品販売事業は、畜産品の相場低迷というマイナス要因はありましたが、在庫管理の徹底やグループ会社との連携強化によって水産物を中心に取扱量の拡大に努め、増収増益を達成しました。

以上により、当中間期の連結業績は、売上高62,544百万円(前年同期比 13.7%増)、営業利益2,529百万円(前年同期比 832.4%増)、経常利益2,646百万円(前年同期比 573.8%増)、中間純利益1,386百万円(前年同期比 734.9%増)となりました。

通期の見通し

今後の日本経済の動向は、米国の景気底打ちや新興国の景気拡大により回復基調を辿りつつも、依然として予断を許さない状況が続くものと思われます。また水産品や畜産品の相場も低水準で推移する見込みです。

当社グループは引き続き、トータル物流サービスの提供、輸出取引の拡大、在庫管理の一元化によるリスクコントロールの強化といった諸施策の推進に取り組んでまいります。

通期の業績見通しにつきましては、上期の実績および今後の事業環境を踏まえ平成22年5月7日に通期業績予想を修正いたしました。

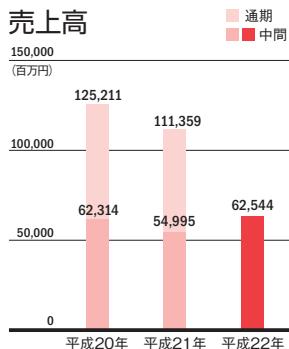
修正後の通期の連結業績見通しにつきましては、

通期連結業績予想

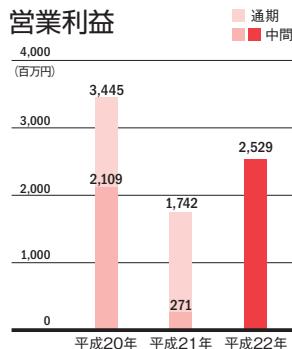
売上高	127,050 百万円
営業利益	4,460 百万円
経常利益	4,680 百万円
当期純利益	2,350 百万円
1株当たり当期純利益	45円40銭

を予想しております。

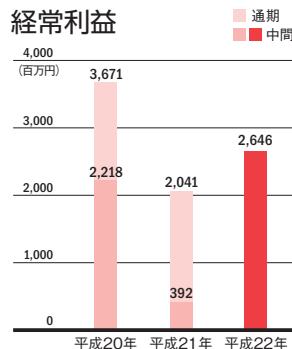
売上高



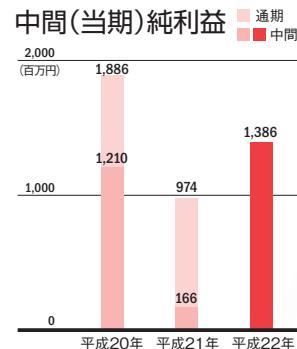
営業利益



経常利益



中間(当期)純利益

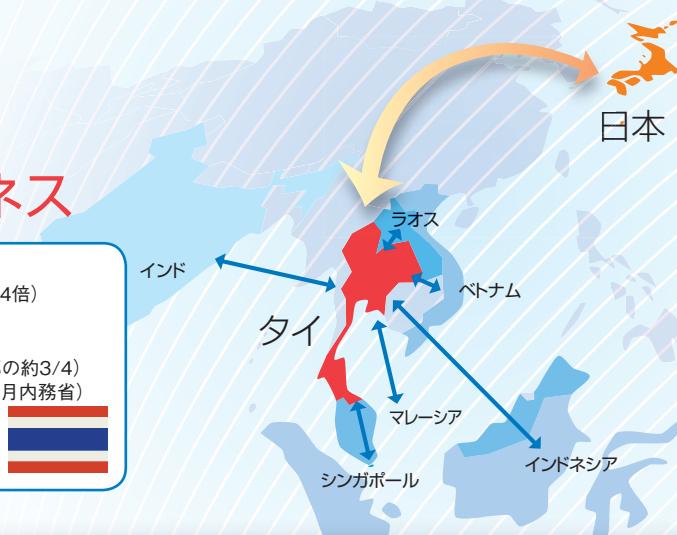


特集:ヨコレイの海外展開

タイにおけるヨコレイのビジネス

ヨコレイはタイの将来性をいち早く予見し、1989年12月にタイヨコレイを設立。同国を拠点にグローバルビジネスの拡大に取り組んでいます。

正式国名：タイ王国
面積：51万3,115平方km（日本の約1.4倍）
人口：約6,300万人（2008年）
首都：バンコク
面積：1,565平方km（東京都の約3/4）
登録人口：572万人（2007年12月内務省）
言語：タイ語
時差：グリニッジ標準時+7時間
（日本標準時-2時間）



—2つの拠点の特徴を活かした

ヨコレイはバンコク駐在員事務所とタイヨコレイ
タイヨコレイのネットワークを食品販売事業の商材拡大に役立てる

食品販売事業

タイを拠点に仕入先の拡大で、旺盛な需要へ多品種供給

近年、日本や欧米の健康ブームを背景に水産物の需要が増大し、タイにおいても買付競争が激化しており、食品販売事業のグローバル展開を加速させるため、2009年4月にバンコクに駐在員事務所を開設しました。

バンコク駐在員事務所は、タイ、マレーシア、インドなど周辺地域の現地パッカーとのパイプを構築し、日本国内向けに販売しています。また、新たな

サプライヤーを開拓して調達力の強化を図る一方、タイ進出20年の中で培った広範囲にわたるネットワークを活用した商材の拡大も計画しています。

ヨコレイは、タイを東南アジアにおける「ハブ」と位置づけています。今後も「原料サプライヤーとしての機能向上」を実現するため、タイを発信地とした食品販売事業の世界的な発展をめざしていきます。

エビ

ヨコレイが得意とするタイの商材「エビ」においては、地元業者とのパイプを構築し、調達力の強化を図っています。

鶏肉

サバ

タイで
取り扱う
主なヨコレイ
の商材



タイの魅力と日本経済とのつながり

タイは2000年以降GDPが年平均5%の高成長を続けるなど、著しい経済発展を遂げ、アジアでも有数の貿易国に成長しました。

近年、タイ国内の道路整備が進むとともに、「東西回廊」と呼ばれるラオス・ベトナムを経て中国へと至る陸路道路網の構築など、近隣諸国との道路網が大幅に改善されたことで、今後食料輸出国としてさらなる発展が期待されています。

日本はタイへの投資額で米国やEUをはるかに上回り、タイにとっての重要な貿易相手国となっています。

タイのGDPと実質成長率の推移



効果的なビジネスを展開

を中核拠点としてタイでのビジネスを積極展開。
など、経営資源の相互活用によるシナジー創出に取り組んでいます。

冷蔵倉庫事業

東南アジア最大級の冷蔵倉庫で、幅広い取扱商品にきめ細かく対応



バンパコン工場とスタッフ

1989年に設立したタイヨコレイは、タイの首都バンコクの東隣県バンパコンと南隣県サムロンの2ヶ所において冷蔵倉庫を運営しています。

約3万トン（合算）の収容能力は、営業冷蔵倉庫としてはタイ国内で最大規模を誇っています。

全事業所においてISO9001の認証を取得するなど、高品質なサービスの提供により、タイ国内や日本から進出されているお客様から高い評価をいただいています。

また、冷蔵倉庫事業のほかに、物流支援業務や日本からの食材を輸入販売する食品販売業務なども行い、現地の取引先との密接な関係を築きながら、タイの地域経済・社会の発展に貢献しています。

タイの天然資源・環境省に支援金を寄付しました

当社は2010年3月9日、タイの天然資源・環境省に環境保全活動への支援として100万パーツを寄付しました。今回の寄付は、タイヨコレイの設立20周年を記念し、食材を取り扱う企業として寄付を通じてタイの環境保全に貢献したい意向を反映させていただきました。



中間連結財務諸表(要約)

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	第63期中間期	第62期中間期
		平成22年3月31日現在	平成21年3月31日現在
資産の部			
流動資産		31,817	28,915
固定資産		53,084	54,253
有形固定資産		44,279	45,406
無形固定資産		2,964	3,174
投資その他の資産		5,841	5,671
資産合計		84,902	83,169
負債の部			
流動負債		19,899	18,562
固定負債		8,519	9,526
負債合計		28,418	28,089
純資産の部			
株主資本		56,063	54,921
資本金		11,065	11,065
資本剰余金		11,109	11,109
利益剰余金		34,401	33,241
自己株式		△ 512	△ 495
評価・換算差額等		124	△ 110
その他有価証券評価差額金		270	57
繰延ヘッジ損益		1	1
為替換算調整勘定		△ 147	△ 168
少数株主持分		296	268
純資産合計		56,484	55,080
負債純資産合計		84,902	83,169

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第63期中間期	第62期中間期
		平成21年10月1日から平成22年3月31日まで	平成20年10月1日から平成21年3月31日まで
売上高		62,544	54,995
売上原価		56,486	51,858
売上総利益		6,057	3,137
販売費及び一般管理費		3,528	2,866
営業利益		2,529	271
営業外収益		259	236
営業外費用		141	115
経常利益		2,646	392
特別利益		21	35
特別損失		83	158
税金等調整前中間純利益		2,585	270
法人税、住民税及び事業税		1,034	45
法人税等調整額		118	48
少数株主利益		46	10
中間純利益		1,386	166

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第63期中間期	第62期中間期
		平成21年10月1日から平成22年3月31日まで	平成20年10月1日から平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,997	△ 1,026
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,759	△ 4,749
財務活動によるキャッシュ・フロー		3,903	7,405
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 2	△ 15
現金及び現金同等物の増減額		△ 856	1,613
現金及び現金同等物の期首残高		5,194	2,183
現金及び現金同等物の中間期末残高		4,337	3,796

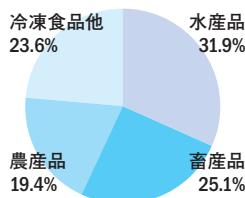
冷蔵倉庫事業

当社グループではブロック体制を基盤としてエリア密着型の集荷活動を展開しましたが、個人消費の低迷や顧客企業の在庫調整により、全体的に荷動きが鈍い状況が続きました。

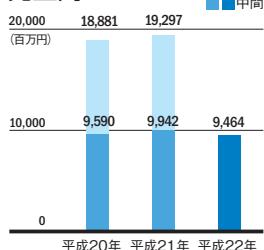
入庫取扱量は前年同期と同水準を維持しましたが、平均保管在庫量は7.1%減少し、売上高は前年同期と比べ減少しました。一方利益面は、収益を重視した集荷活動とコスト削減による利益率の向上が奏功し、前年同期比で増益となりました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の業績は、売上高は前年同期比4.8%減収の9,464百万円、営業利益は前年同期比9.2%増益の2,158百万円となりました。

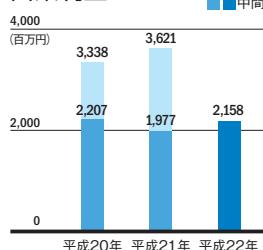
入庫量品目別割合



売上高



営業利益

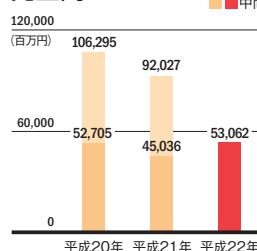


食品販売事業

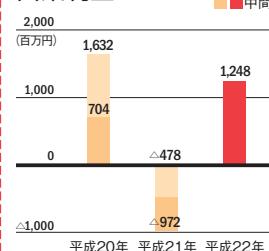
当中間期の事業環境は、水産品および畜肉の相場が低水準で推移するなど厳しい状況が続きましたが、当社グループは、事業部制による徹底した在庫管理と利益率を重視した販売活動、グループ会社との連携強化を推進し、増収増益を達成しました。品目別では、水産品はサケ、サバの輸出を中心に、農産品は販路拡大によりそれぞれ増収増益、畜産品は減収増益となりました。

以上の結果、食品販売事業の業績は、売上高は前年同期比17.8%増収の53,062百万円、営業利益は1,248百万円の営業利益（前年同期は972百万円の営業損失）となりました。

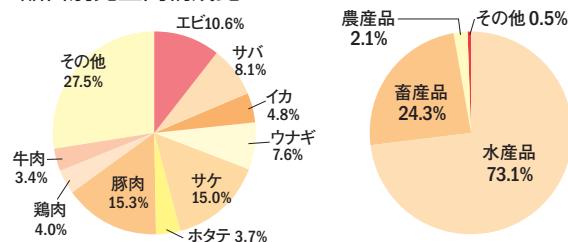
売上高



営業利益



品目別売上高構成比



新たな食品販売事業の拠点として 「ヨコレイ新富ビル」を竣工

食品販売事業の目標の1つである「原料サプライヤーとしての機能向上」の一環として、当社の東京営業部、畜産事業部、水産原料部と、昨年子会社となった株式会社アライアンスシーフーズを集約させた「ヨコレイ新富ビル」を3月に竣工いたしました。

4つの部門が1ヶ所に集約されることで、お客様にとっては、1度の来社で水産原料、水産加工品、さらに畜産品に至るまで取引ができるメリットがあるだけでなく、取扱商品の情報が1つにまとまり、世界への情報発信を効率的に行うことができます。

また、当ビルの1階には、各種調理器具を完備したテストキッチンルームを備え、お客様に対するプレゼンテーションや、新商品の開発なども行っています。



「ヨコレイ新富ビル」 エントランス



テストキッチンルーム

しぶし 志布志物流センター内に「農産品パッキングセンター」を新設



農産品パッキングセンター概要

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ① 建築面積 2,462㎡ (約750坪) | ③ 収容能力 3,177 t |
| 敷地面積 9,899㎡ (約3,000坪) | ④ 凍結室 2室 24 t / 日 |
| ② 選別室 657㎡ (約200坪) | ⑤ 自動計量選別機1台 (5 t / 日) |

農産品の一大生産拠点である南九州大隅地区を控え、中国や東南アジアなどへの国際物流拠点としての役割が高まる鹿児島県志布志港の臨海工業用地の一角に位置する志布志物流センター内に、「農産品パッキングセンター」が平成22年5月27日に完成いたしました。

当センターは、保管・凍結業務に加え、選別作業などのサービスを一括して提供することで、地元の皆さまのニーズにお応えいたします。また、当社では初となる全館にLED照明を使用し、CO₂排出量の削減を考慮した地域密着型のセンターとしての役割を果たしてまいります。

ヨコレイくんが行く!

頑張るヨコレイ VOL.3



ヨコレイの
冷蔵倉庫は「地球に
やさしい」らしい。みんな
に代わって冷蔵倉庫を
探検してきたよ!

環境にやさしい冷蔵倉庫

物流センターの人に案内されて倉庫内に入ってみた。でも、どこが環境にやさしいのだろう？うながされて天井を見上げると、ムム……、柔ら

かな光が降り注いでいるぞ。これが高効率照明器具なんだね。従来の照明に比べて、電力消費量を約6.7%削減しているんだって（当社実績）。

おっ、あそこには分別回収ボックスがあるぞ。ゴミがきちんと分別され、資源物はリサイクルされているんだね。

ヨコレイでは、冷蔵倉庫事業所34ヶ所で「グリーン経営認証」を取得しているそうだ。この認証は交通エコロジー・モビリティ財団が審査・登録しているもので、環境改善の取り組みが進んでいる証なんだ。



「グリーン経営認証」を取得した「十勝物流センター」

倉庫内はどこも整理整頓が行き届いていて気持ちがいい。ぐりと回って最後に屋上

に出てみたら、そこはキラキラ輝く太陽光パネルの海だった！太陽光発電システムは化石燃料を燃やさないからCO₂の削減に効果的なんだね。

ヨコレイは、環境保全の仕組みをつくったり、エネルギー効率を高めたり、廃棄物の発生をおさえたりと、環境負荷低減のために様々な活動をしているんだ。

2010年には阪神地区の5つの事業所でも認証を取得する予定だそうだ。これで全国に39ヶ所ある総ての冷蔵倉庫が環境にやさしいというお墨付きをもらうことになる。ヨコレイは事業の発展だけでなく、地球のことも真剣に考えているんだね。



ヨコレイの
冷蔵倉庫は、どんどん
進化しているね。
次回もお楽しみに!



●食品販売事業

北海道水産事業部

- 北海道水産事業部(札幌)

東北水産事業部

- 東北水産事業部(仙台)
- 八戸営業所
- 気仙沼営業所

農産事業部

- 農産事業部(旭川)
- 十勝営業所
- 留寿都分室

水産原料部

- 水産原料部(東京)
- 茨城営業所
- 銚子営業所
- 沼津営業所

■ 畜産事業部

■ 東京営業部

■ 横浜営業部

■ 名古屋営業部

■ 大阪営業部

九州水産事業部

- 九州水産事業部(福岡)
- 長崎営業所
- 鹿児島営業所
- 佐世保営業所
- 唐津分室

■ バンコク駐在員事務所

● 連結子会社

■ 株式会社セイワフード

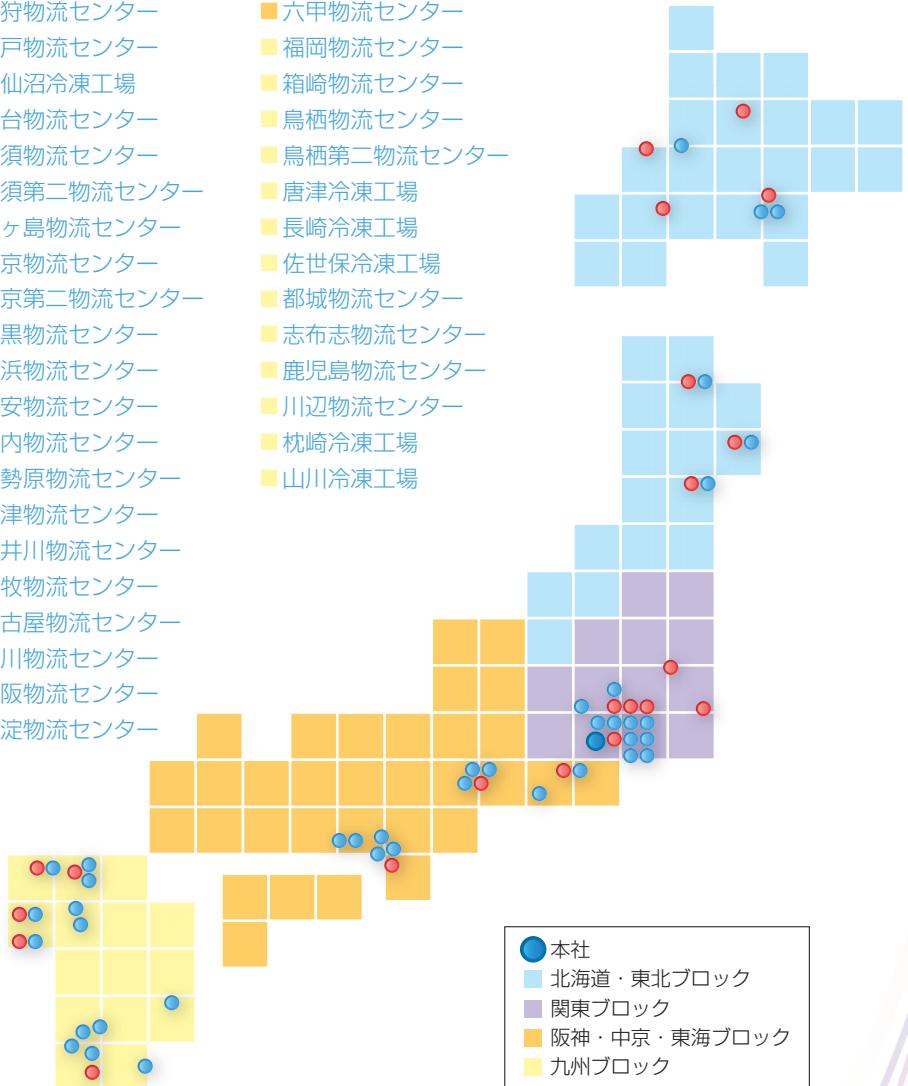
■ 株式会社
アライアンスシーフーズ

■ タイヨコレイ株式会社

● 冷蔵倉庫事業

- 十勝物流センター
- 十勝第二物流センター
- 石狩物流センター
- 八戸物流センター
- 気仙沼冷凍工場
- 仙台物流センター
- 加須物流センター
- 加須第二物流センター
- 鶴ヶ島物流センター
- 東京物流センター
- 東京第二物流センター
- 大黒物流センター
- 横浜物流センター
- 子安物流センター
- 山内物流センター
- 伊勢原物流センター
- 沼津物流センター
- 大井川物流センター
- 小牧物流センター
- 名古屋物流センター
- 中川物流センター
- 大阪物流センター
- 西淀物流センター

- 舞洲物流センター
- 神戸物流センター
- 六甲物流センター
- 福岡物流センター
- 箱崎物流センター
- 鳥栖物流センター
- 鳥栖第二物流センター
- 唐津冷凍工場
- 長崎冷凍工場
- 佐世保冷凍工場
- 都城物流センター
- 志布志物流センター
- 鹿児島物流センター
- 川辺物流センター
- 枕崎冷凍工場
- 山川冷凍工場



株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日
	剰余金の期末配当 9月30日
	剰余金の中間配当 3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
公告の方法	電子公告
	※電子公告は当社ホームページに掲載します。
	なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。
	http://www.yokorei.co.jp/investors/investors/electronic-public-notice/
単元株式数	1,000株
上場取引所	東京証券取引所(第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主の皆さまの声を聞かせください。

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2874

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、[いいかぶ](#)と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

【平成22年7月1日より、単元株式数に変更になります】

- ①当社では、平成22年5月14日開催の取締役会決議により、平成22年7月1日(木)付けをもって、単元株式数を1,000株から100株に変更する定款変更を行いました。
- ②上記変更に伴い、平成22年7月1日(木)付けをもって、東京証券取引所における売買単位も1,000株から100株に変更いたします。
- ③なお、株主各位におかれましては、一切の手続きは不要ですので念のため申し添えます。